

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献 車載通信機検証自動化システム

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。富士通のパーパス「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていこう」とは、SDGs達成への貢献を社内外に約束するものです。富士通は、長年にわたりテクノロジーを通じて社会に価値を提供してきたグローバル企業として、社会の変革に主体的に貢献する責任があります。世界をより持続可能にするために、社会に対して、より良い、かつスケールの大きなインパクトを与え、自社も持続的に成長していくことを目指しています。富士通は、2023年5月に発表した中期経営計画において、2030年に向けた価値創造の考え方を示しました。必要不可欠な貢献分野（マテリアリティ）の「地球環境問題の解決」「デジタル社会の発展」「人々のウェルビーイングの向上」への取り組みを通じ、SDGsへの貢献を目指します。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs) を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030 年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



車載通信機検証自動化システム

当システムは、車載通信機の検証業務を自動化するソリューションです。従来、車載通信機の検証は評価項目書を参照しながら検証用機器を操作してログを収集し、目視でログを解析して結果を判定してましたが、当ソリューションは予めRPA（Robotic Process Automation）ツールで当該プロセスをプログラミングし自動化することが可能です。これにより、業務効率化による作業時間の短縮とヒューマンエラー防止による評価品質の向上が図れます。加えて、業務効率化によるCO₂排出量の削減にも貢献します。

当ソリューションが貢献可能なSDGsのゴール



働きがいのある人間らしい仕事を実現する。



ICT導入による生産性向上、業務改善等によりお客様におけるCO₂排出量を削減する。

「車載通信機検証自動化システム」による業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

「車載通信機検証自動化システム」は、車載通信機の検証業務を自動化するソリューションです。従来、車載通信機の検証は評価項目書を参照しながら検証用機器を手動で操作してログを収集し、目視でログを解析して結果を判定してました。当ソリューションを導入することで、予めRPA（Robotic Process Automation）ツールで当該プロセスをプログラミング（シナリオ化）し自動化することが可能になります。

これにより、業務効率化による作業時間の大幅な短縮とヒューマンエラー防止による評価品質の向上が図れます。加えて、業務効率化によるCO₂排出量の削減にもつながります。

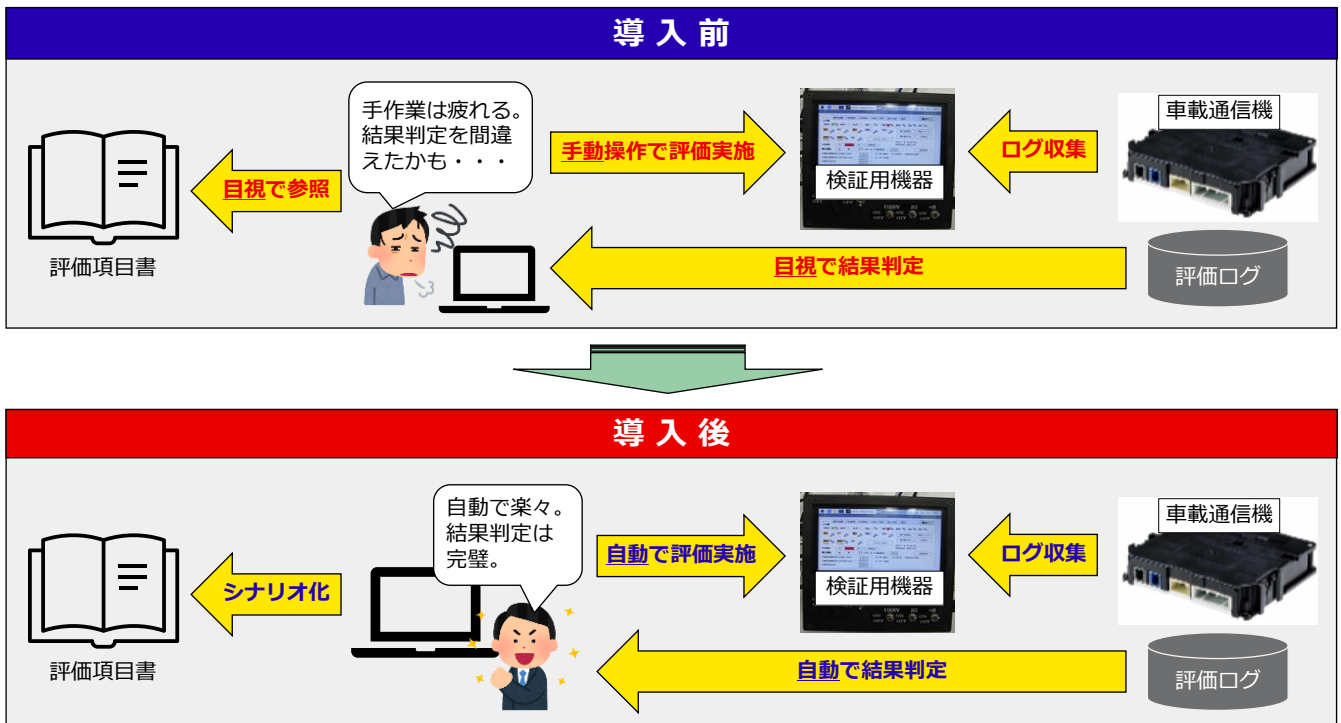
効果

- ・CO₂排出量の削減効果：約50% ※富士通フロンテック試算
- ・車載通信機検証工数 ※検証項目数：約10,000項目／年、検証効率：【導入前】1時間／項目【導入後】0.5時間／項目で試算
【導入前】車載通信機検証業務 約10,000時間／年（手作業で検証用機器の操作・ログの収集・評価結果の判定を実施）
【導入後】車載通信機検証業務 約5,000時間／年（自動化システムで検証実施）
⇒約50%削減
- ・検証用機器消費電力 検証用機器の消費電力：1.2kW／時間、PCの消費電力：0.05kW／時間で試算
【導入前】車載通信機検証業務 約12,500kWh／年（手作業で検証用機器の操作・ログの収集・評価結果の判定を実施）
【導入後】車載通信機検証業務 約6,250kWh／年（自動化システムで検証実施）
⇒約50%削減

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、システムの特性により結果が異なることを予めご承知おください。

車載通信機検証自動化システムの導入によって、何故、業務効率および評価品質が向上するのか？

- ① 検証業務を手動や目視によるプロセスから自動化することで効率化し、作業時間を大幅に短縮します。
- ② 検証手順を予めプログラミングしておくことで、ヒューマンエラーを防止し評価品質が向上します。



お問い合わせ先

株式会社富士通フロンテックシステムズ

ファイナンス&リテール事業本部 第二ソリューション事業部

Webによるお問い合わせ： <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/>